

海外インターンシップ	
韓国と日本における剣舞の伝承と比較	
鄭 恵珍	比較社会文化学専攻
期間	2009年5月21日～2009年6月3日
場所	韓国 ソウル
施設	漢陽大学、世宗大学

内容報告

本報告者は博士課程において「朝鮮・大韓帝国における女技剣舞」をテーマとして、朝鮮（1392 - 1897）・大韓帝国（1897 - 1910）時代に宮中や地方教坊で演じられていた剣舞を、朝鮮時代の剣舞の原型に最も近いとされる晋州地域の剣舞を事例にし、研究を進めている。そのため、大きく①朝鮮王朝・大韓帝国期：宮中における剣舞、②朝鮮王朝・大韓帝国期：地方教坊における剣舞、③殖民時期：券番における剣舞、④現行晋州剣舞に焦点を当て、理論面からの研究を進める一方、韓国重要無形文化財第12号として指定されている晋州剣舞の保存会に籍を置き、伝授者として実技面での研究も進めている。

今回の海外インターンシップは、今までの研究をより深めるため客観的な視点から意見を聞く必要性を感じ、現地の研究者と学生を対象としたディスカッションと発表を行った。

以下では、韓国舞踊史学会 第11回 学術シンポジウム＜韓・日剣舞の史的眺望＞への参加と世宗大学舞踊学科における海外インターンシップの実習を通じて得られた成果について報告する。

1. 実習先1 漢陽大学

2009年5月23日、漢陽大学において、韓国舞踊史学会主催による＜韓・日剣舞の史的眺望＞というテーマでの学術シンポジウムが開かれた。この学会テーマは、まさに本報告者の研究課題に関連しており、韓国の剣舞の研究者らとの情報交換を行うよい機会であると考え、海外インターンシップの日程が近いこともあり、参加したものである。

本報告者は、学術シンポジウムの発表者でもあるお茶の水女子大学の中村美奈子准教授の通訳者（韓国語－日本語）として学会に参加し、最後に行われたクロスディスカッションでは、自らも現地の剣舞研究者らとのディスカッションに参加した。

今回の学術シンポジウムでは、日本の剣舞として、

前述の中村准教授による「岩崎鬼剣舞に関する文理融合型研究」のほかに、韓国に伝わる剣舞の武術的性格に対する考察や韓国近代舞踊における剣舞に関する考察、朝鮮時代宮中剣舞の類型別考察など多角的に剣舞に関する発表がなされた。特に剣舞の武術的性格に対する考察や朝鮮時代の宮中剣舞に関連した発表では、本報告者が研究を進めていく過程で疑問に思っていた部分や本報告者とは相違する意見であった部分について、質疑応答やディスカッションを通じて意見交換を行った。韓国舞踊史学会は、来年度は中国の剣舞の研究者を招聘して、韓国の剣舞との比較考察を行うということである。

2. 実習先2 世宗大学

世宗大学舞踊学科での実習は、世宗大学舞踊学科の協力を得て、＜東洋舞踊史＞という授業名で韓国舞踊専攻者を対象として2009年5月29日に講義を行った。授業は、本報告者が今まで収集した剣舞関連資料や学会での発表内容を中心に「韓国と日本における剣舞の伝承と比較」というテーマでPowerpointやDVD資料を用いて実施した。授業展開は、①韓国における剣舞の概観、②朝鮮王朝期と大韓帝国期の宮中における剣舞、③地方官庁の教坊における剣舞、④植民地期の券番における剣舞、⑤現在、晋州地域に伝わる剣舞を時代の流れに沿って、それぞれ15分程度で行った。

また、実習先である世宗大学舞踊学科側の要請により、日本と日本の在日朝鮮人に伝わる剣舞に関しても自分が分かる範囲内で紹介をした。在日朝鮮人に伝わる剣舞に関しては、修士論文の研究対象であった「金剛山歌劇団」の映像資料のうち、＜金剛山の舞姫＞と＜任秋子民族舞踊団特別公演、舞踊生活六十周年記念公演＞から選び、日本に伝わる剣舞に関しては、お茶の水女子大学の中村美奈子准教授の協力を得て、2006年に情報処理学会の「人文科学とコンピュータ研究会」で、中村、内田、小島の3人の共著として発表した論文を参考とし、岩手県に伝わる岩崎鬼剣舞について講義を行った。

予定していた時間より講義が延びてしまったが、学生らは、映像資料を観覧する時に深い興味を示していた。その後、国や地域、歴史や環境などが伝統芸能の伝承や変化にどのような影響を与えるのかについて討論を行った。今回、参加した学術シンポジウムでも感じたことであるが、現地の研究者や学生らと剣舞についてディスカッションをすることで、より多様な角度から剣舞に関して検証を行う必要があることを実感した。

今回の海外インターンシップでは、韓国舞踊史学会に参加し、また、世宗大学舞踊学科の韓国舞踊専攻者を対象とし発表を行った。その過程で報告者は、多様な角度から韓国における剣舞を検証・考察する必要があることを実感した。

今回の海外インターンシップで得られた成果は、現在まで収集した資料とも合わせて、お茶の水女子大学の2009年『人間文化創成科学論叢』や舞踊学会学術誌『舞踊学』に投稿する予定である。

ジョン ヘジン／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

【指導教員のコメント】

韓国中央大学舞踊科教授の李 周熙氏より、韓国舞踊史学会 第11回 学術シンポジウム＜韓・日剣舞の史的眺望＞において、日本の剣舞について発表をしてほしいという依頼が筆者（中村）のほうにあった。李 周熙氏は、かつて本学の博士後期課程で学び、課程博士を取得している。この学会が、鄭さんの海外インターンシップ期間中に開催されるということで、李氏に相談したところ、鄭さんも学会でのディスカッションに参加をさせていただけることになった。本学の学位取得者が、帰国後に要職に就き、本学との学術交流を行うことで、更に日本と韓国の両国の舞踊学が発展していくというよい循環ができているように思う。

世宗大学舞踊学科での海外インターンシップについては、本人も言っていたが、日本や在日朝鮮人の舞踊（剣舞）のほうに、もう少し比重を置いた授業にしたほうが韓国人の学生らにとっては興味深かったように思う。（ただ、本人としては、本インターンシップの規定で、授業内容は博士論文の研究課題であることが求められているため、それをかなり忠実に守ったようである。）

なお、鄭さんには、昨年度（2008年度）の文理融合リベラルアーツ科目「舞踊における色・音・香」において、筆者（中村）の指導のもとにゲストスピーカーとして韓国の舞踊に関する授業を行ってもらった。また、同科目において、本人の研究対象の一つである在日朝鮮人の舞踊団「金剛山歌舞団」を招いての授業企画を行ってもらった。

このように、韓国と日本で同じテーマでの授業を行うということは、鄭さんの今後の研究においても教育においても貴重な経験になったと思う。

（お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 准教授 中村 美奈子）